

# フランスにおけるフェンシング競技選手の 育成について（そのⅡ）

藤澤義彦

## 《ABSTRACT》

Only sole weapon with fixed size and weight requires fencing competitor's physical constitution and strength as well as their techniques, while none of physical training will make any drastic improvement for senior-class competitors.

In order to cope with this, some measures such as "scouting for right stuff" and "educational schemes" aiming at competitors younger than junior-class are so vital. In fact, most of world's top competitors have been educated by systematic scheme since their childhood. In France, most of the competitors take up fencing when they are around 10 years old. And in the interesting of aiding those juvenile competitors, the fencing association of France has an elaborate instructive scheme called "les Blasons" which is followed by a joint training policy called "les pôles France" and "Les pôles Espoirs" for top-level competitors in association with the Ministry of Sports. In addition, it is notable that widespread "Clubs" are very effective to support those policies.

Although those policies and schemes for sports education in France are different in many ways such as educational system and customs com-

pared with Japanese counterpart, this study claims that the joint sports policy by the French government and the private organization be quite useful for consideration of Japanese future program.

は じ め に

青少年のフェンシング養成システム

ハイ・レベル競技選手の養成システム

お わ り に

文 献

## は じ め に

従来よりフェンシング競技は、競技経験者の少ないこともあり、体力的消耗の少ないスマートな競技とされているようである。しかし、競技会で上位に進出するためには、精神的にも肉体的にも消耗の激しい過程をたどるのが実態である。このことは十分な練習によって獲得された高度な技術を、充実した気力および体力で発揮しなければならない<sup>1)</sup>ことを意味する。このような条件は、どのスポーツについてもいえることであり、デリケートなポイントによって勝負を争うフェンシングの競技遂行上、優秀な選手となるための条件とは何かとの疑問が生起する。しかし、現在でもなお決定的な要因が解明されていない。これは、この競技が一般に広く普及していないことも一つの要因と思われるが、それより派生して、個人的なゲーム形式における専門技術探究強化、作戦対策といった技術的な面のみが重視されて来たためではないかとも考えられる。

フェンシングにおいて優れた成績をあげるためには、一定の長さで、一定の重量の武器を操作し、相手よりも早く的確に「突く」または「切る」ことが要求されるため、体格的に長大であることが有利であることは、すでに報告した通りである<sup>2)3)4)</sup>。また、これらの武器を1日～2日の大会期間中、効果的に操作するためには、技術とともに優れた体力が要求されることも同様に報告してきた<sup>5)6)</sup>。しかし、シニア・クラス（20歳以上）の選手にこれらの問題の改善を

試みても、国際的な競技力の向上には、効果が薄いように思われる。そのため、ジュニア・クラス（17歳～19歳）以下の選手の「資質の発掘」、「養成のための方策」を検討することは非常に重要で、ヨーロッパ諸国および中華民国等においては、すでに広く実施されている<sup>7)</sup>。外国における一流選手は、ほとんどがジュニア・クラスまたは、それ以前からの系統的な育成によって上達しているのが現状であり、そのような育成方法がシニア・クラスの競技力を支えている。

フランスのスポーツ選手強化策は、我が国の現状と比較した場合、教育制度、習慣等の違いで異なる部分が非常に多い。しかし、数種の競技において、トップ・クラスにあるフランスの強化策は、今後の参考に成り得るものと思われる。そこで今回は、フランスにおける初心者から国際的一流選手に至る選手強化のための各種方策を、2002年4月から実施している現地での調査により入手した資料をもとに若干の検討を加えたい。

### 青少年のフェンシング養成システム

フランスでは、10歳前後でフェンシングを始める子供が多い。そのため、フェンシング協会では彼らを育成するために、綿密な指導策を持っている。それが、「紋章」という意味のフランス語、Les Blasons（レ・ブラゾン。ブラゾンとする、以下同じ）と命名された制度である。何故、「紋章」なのかといえば、後述する種々の資格を取得すると、フェンシング・ユニフォームに付ける小さな紋章（ワッペン。写真1）が与えられるため、この名前が付いたようである。

このブラゾンは以前、効果的な指導指針として広く用いられた、Les Brassards（レ・ブラサル。ブラサルとする、以下同じ）制度<sup>8)</sup>を基本として作られている。ブラサルは、フェンシング習得に6段階のレベルを設定し、年少のフェンサーに練習目標を示した制度で、初心者が36ヶ月（3年）でフェンシングを学習するようになっていた。

ブラゾンは、ブラサルの基本理念を無視することなく、フェンシングをより簡単に理解できるように改良したものである。しかし、両者の決定的な違いは、ブラゾンには競技会に出場するための条件が盛り込まれている点である。

技術、戦術、競技規則を身につけないと試合に出場させないシステムになっている。

ブラゾンの目的は、若いフェンサーに「継続する意欲」を持たせながら育成し、競技会に出場できるようにすることである。また、ブラズンは子供たちに、フェンシングを無意識でやるのではないことを認識させる一つの手段でもある。

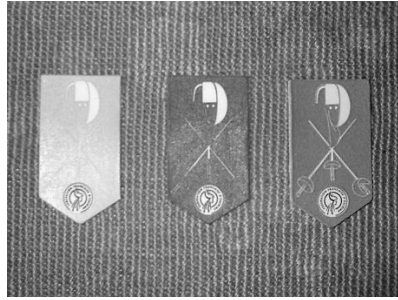


写真1 ブラズン

ブラズンには大きく分けて、Formation（フォーメーション：養成）という、技術・戦術等の習得度を認定するものと Competition（コンペティション：競技会）という、競技成績に対して与えるものの2種類がある。

#### a) Formation（フォーメーション：養成）ブラズン

前述の通り、ブラズンは子供たちに、技術習得等の段階的な練習方法や到達目標、および、競争心を与えるものである。通常フェンシングでは、3種目、すなわちフルーレ、エペ、サーブルの各種目に分かれ、それぞれの専門的な指導を受けることになる。しかし、3種目に分かれても、ブラズンの内容に則して指導が行われる。このブラズンは、単に子供と指導者にのみ作用するのではなく、親とも関連を持ちながら（表1）子供を「養成」していく性格を持っている。一般的にスポーツ・トレーニングにおいて技術等を指導する場合は、選手を「育成する」という表現をよく用いる。しかし、フランスでは子供たちに、フェンシングの技術、戦術のみを指導するだけでなく、フェンシングを通じて子供たちの社会性等の向上をも含めた全般的な教育を行うという意味から、Formation（フォーメーション）という単語を使用している。そのため、ここでは Formation を直訳して「養成」という言葉を用いることにする。

まず、フォーメーション・ブラズンは、技術、戦術、試合規則等の習得レベルを判定するもので、Jaune（ジョーン：黄）、Rouge（ルージュ：赤）、Blue

表 1. ブラゾンと子供，親，指導内容との関連

子供に対してブラゾンは、……	ブラゾンは、親が……	ブラゾンの指導内容は、……
フェンシング習得の中での「目標」を与える。	子供に教える場合の参考になる。	フェンシングの基礎を習得する。試合規則を理解する。
その「目的」を子供たちの発達の中に具体化する。	子供の発達プログラムに参加することが出来る。	動作の目的を理解する。
「試合結果」だけが、重要でないことを理解させる。	子供の発達程度と、グループ内での子供の実力を総合的に評価することが出来る。	基本的な試合規則に沿った技術を習得する。
彼らが獲得したもの、すなわち「運動の制御」, 「行動・動作の習得」, 「競技の認識」等に対する報酬である。		基本動作の「価値」を知る。
色々な意味において、彼らに今後の「計画」を与える。		他の選手の行動を尊重し、自分自身を熟達させる。

(ブルー：青) の 3 種類がある。

ブラゾン・ジョーンは、フェンシングの基礎を習得したフェンサーに与えられる。一般的にフェンシング競技では、剣の持ち方、剣を持って構える基本姿勢、前後の移動動作、間合いの把握等を特に Fondamentaux (フォンダモンター：基礎) と呼んでいる。ただ、このブラゾンを取得しても、まだ競技会に出場できない。

ブラゾン・ルージュは、初歩的な基本技術・戦術を習得したフェンサーに与えられる。フェンシングにおける基本技術とは、基礎以外の総ての技術のことを言う。また、このブラゾンを取得することにより、各地区<sup>※1</sup>主催の青少年競技会に出場できる。

ブラゾン・ブルーは、基本技術・戦術、競技規則等を全般的に習得したフェンサーに与えられ、このブラゾンの取得により初めて、フランス・フェンシング協会主催の青少年全国大会に出場する資格を得るのである。

このようにブラゾンは、フェンシングの、基礎・基本技術等を身に付けないと競技会に出場させないという、フェンシング協会の規則でもあり、また、子供のフェンシングへのモチベーションを高める手段でもある。

\*1 ここでいう「地区」とは、フランスでは、Ligue：リーグと呼び、現在フェンシング協会には、30のリーグが存在する。

フェンシングに限らず、あらゆるスポーツ種目において、その競技をより多角的に理解するためには、競技を判定できる能力が必要である。その考えから、試合規則を正しく理解し、審判法を身につけた選手に対しては、Jeune Arbitre（ジュン・アービートル：少年審判員）というブラゾンが与えられる。

以上のフォーメーション・ブラゾンには、写真2のような教本があり、練習をやりながらこの教科書を読み、練習内容を確認するのである。内容は、非常にわかりやすく、難解なフェンシングを子供にも理解できるように上手く解説しているところに、フェンシングの歴史を感じる。



写真2 フォーメーション・ブラゾンの指導教本

#### b) Compétition（コンペティション：競技会）ブラゾン

コンペティション・ブラゾンには、Régional（レジオナル：地方）レベルと National（ナショナル：全国）レベルの2種類がある。これらは共に、競技会というフェンシング技術・戦術の実践の場での、自分自身の実力を認識することを目的とし、Blasons Champion de Ligue（ブラゾン・チャンピオン・ドゥ・リーグ）とBlasons Tricolore（ブラゾン・トリコロール）の2種類がある。

ブラゾン・チャンピオン・ドゥ・リーグは、各地区の競技会での優勝者に各地区協会から授与されるものであり、ブラゾン・トリコロールは、フランス・フェンシング協会主催の14歳以下の公式競技会に優勝した選手に、フェンシ

グ協会から授与される。この2つのブラズンは、競技会に優勝した名誉として選手に与えられ、学習を重視したフォーマシオン・ブラズンとは若干ニュアンスが異なるが、フェンシングへの意欲を高める目的においては同じ効果を持っているものと考えられる。

ブラズンは、以上のように6種類がある。しかし、ブラズンは決して

トップ・スポーツ選手の参考になるような指導モデルではなく、子供をフェンシングに迎え入れ、子供を系統的な指導体系に従い養成するものである。またブラズンは、子供たちが繰り返し練習して得た「腕前」、すなわち練習の「成果」に対する「認定証」（写真3）でもあり、言い換えればこの「認定証」を取りたい気持ちが、子供をクラブでの練習へ参加させるのである。

ブラズンは、普通、所属クラブ内で編成されたグループから授与される。それらは、クラブ会長や指導者で編成されたものであったり、指導者だけで編成されたものであったり、各クラブによって様々である。

ちなみに、フランスでは指導者のレベルが表2のように6段階に分かれている。この場合、ブラズンを認定出来る指導者は、メートル・ダ・ルムと呼ばれる、国家検定試験に合格した資格を持つ指導者のみである。しかし、プレヴォー・フェデラルと呼ばれる指導者に限り、各地区のC. T. R（Conseil Technique Régional：コンセイユ・テクニク・レジオナル：地区フェンシング指導・競技統括責任者）か、または、各地区の教育担当責任者のメートル・ダ・ルムの承認を得れば、ブラズンの資格を与える立場になることができるようになっている。

一般的にブラズン・ジョーンは数回のテストにより評価されるが、ブラズン・ルージュとブラズン・ブルーはテスト実施日を設定し評価されるようである。



写真3 フォーマシオン・ブラズンの認定証

表 2. フランスのフェンシング指導者資格

協会認定資格	〈第 1 段階〉	Initiateur (イニシアトゥール)
	↓	
	〈第 2 段階〉	Moniteur (モニトゥール)
	↓	
	〈第 3 段階〉	Prévôt Fédéral (プレヴォー・フェデラル)
<hr/>		
国家検定資格 Brevet d'État (ブルヴェ・デタ)	Maitre d'armes (メートル・ダ・ルム)	〈第 4 段階〉 1 <sup>er</sup> Degré d'Éducateur Sportif (初級スポーツ指導者)
		↓
		〈第 5 段階〉 2 <sup>e</sup> Degré d'Éducateur Sportif (2 級スポーツ指導者)
		↓
	〈第 6 段階〉 3 <sup>e</sup> Degré d'Éducateur Sportif (3 級スポーツ指導者)	

各ブラゾン認定までに必要な練習期間は、ブラゾン・ジョーンはフェンシング開始 4 ヶ月間、ブラゾン・ルージュは 1 年間、ブラゾン・ブルーは 1 年 4 ヶ月間である。また、ジュヌヌ・アービットルは、審判員に必要な試合規則および基本的な審判法（ジェスチャー、用語等）を習得した、ブラゾン・ブルー資格を有する者に与えられる。しかし、これらは、あくまでも一つのガイド・ラインであり、子供たちの状態により期間調整は可能なようである。

ブラゾンは、子供たちが将来優秀なスポーツ選手、優秀な社会人になることを目的としたものであると同時に、フランス・フェンシング協会にとっては、底辺拡大のための初心者ライセンス普及活動を活性化させるための一つの「道具」でもあるのである。

### ハイ・レベル競技選手の養成システム

ブラゾン・ブルーの取得後、子供たちは「選手」となり様々な競技会に出場する。その中から将来のチャンピオンが生まれるのである。そのような優秀な選手に対して、現在フランス・フェンシング協会では、2 種類のトレーニング政策を設け、選手強化を行っている<sup>9)10)11)</sup>。それらは、les Pôles France (レ・ポール・フランス) と Les Pôles Espoirs (レ・ポール・ゼスポワール) と呼ばれ、ともに国際的なトップ・クラスの選手を育成するためのシステムである



（les Pôles France をポール・フランスと、Les Pôles Espoirs をポール・ゼスポワールとする、以下同じ）。ポール・フランスとは、フランス・ナショナル・チームに属する選手、および準ナショナル・チームの選手たちが加入する組織である。ポール・ゼスポワールは、将来ナショナル・チームに入る可能性を持った選手で構成されている。

この Pôle（ポール）とは、一般的には、北極とか南極の「極」を意味する言葉であるが、ここではポールを「一つの場所」という概念で用いている。すなわちポール・フランスは、「フランス・フェンシング・ナショナル・チームが練習をする究極の場所」とでも言えばいいのかもしれない。

ポール・フランスとポール・ゼスポワールは、フランス・スポーツ省<sup>\*2</sup>が管轄する、C.N.S.H.N.（Commission nationale du Sport de Haut Niveau：コミッション・ナショナル・デュ・スポー・ドゥ・オー・ニヴォー；全国ハイ・レベル・スポーツ選手委員会、以下同じ）が優秀な資質を有する選手を探知・発見し、そして、各競技団体に加盟させ養成するために考案された強化政策である。選手がポールに加入するにあたり、まず C.N.S.H.N. に登録しなければならない。それが「ハイ・レベル・スポーツ選手登録（以下同じ）」制度である。この制度は、国家としてトップ・クラスのスポーツ選手の存在を認識することが目的である。

<sup>\*2</sup> 昨年度までは、フランス青少年・スポーツ省と呼ばれていたが、2002年6月の大統領選挙後に、青少年省とスポーツ省に分割された。また、フランスではトップ・クラスのスポーツ選手を Sportif de Haut-Niveau（スポルティフ・ドゥ・オ・ニヴォー）と呼ぶため、ここでは、直訳して「ハイ・レベル・スポーツ選手」とする、以下同じ。

ポールは、単に国際的な競技力を向上させるだけのスポーツ指導を行うのではなく、スポーツ選手として好成績をあげながらも、他方、学生として、あるいは社会人として成功するように導く、スポーツ計画と社会性を両立させることを目的に考えられたシステムでもある。

スポーツ省が認定する「ハイ・レベル・スポーツ選手」には、企業とプロ契約を結んだ、プロ選手は存在しない。必ず学生か企業の社員であることが条件となる。社会人を例にとると、彼らはまず、所属する企業と就業契約を結ぶ。フェンシングでよく見られるケースでは、企業と半日就業の契約を結ぶ。半日仕事をし、半日トレーニングをするわけである。この場合、半日就業の契約のため当然給与は半額となるが、残りの半額をフェンシング協会が支給し、選手の生活を保障するのである。大会等の遠征には、フランス政府で認められている、年間5週間のヴァカンスを充てる。このように常に仕事とトレーニングを並行して行うことにより、競技引退後の仕事を確保しているのである。スポーツ省の言うスポーツ計画と社会性の両立とはこのことを意味している。

フランス・スポーツ省から入手した資料<sup>12)</sup>をもとに、この制度を説明すると以下ようになる。

ポール・フランスとポール・ゼスポワールをスポーツ省に登録する「ハイ・レベル・スポーツ選手登録」は、以前に行われていたトップ・スポーツ選手登録方法や、将来の一流選手養成のための Sections Sport-Études (セクション・スポーツ・エチュード：スポーツ学生制度)<sup>7)13)</sup> や、フランス青年スポーツ省管轄の選手養成機関であった C.P.E.F. (Centres Permanents d'Entraînement et de Formation：専門的トレーニング・養成センター)を使用した制度に変わるもので、1995年以来実施されている。セクション・スポーツ・エチュードについては、すでに我が国で種々の報告がされている<sup>7)</sup>。青少年スポーツ選手に、学業とスポーツを両立させるべく国家的に考案された制度である。優秀な資質を持った青少年をスポーツ施設に集め、そこから諸学校へ通わせる。学業の後には、ナショナル・コーチの下でトレーニングを行うのである。C.P.E.F. は、スポーツ施設の中に若干の教育施設を設け、より効率的にトレーニングを行えるよう考えられた施設である。ポール・フランスとポール・ゼスポワールは、これら2つを基本に考えられたものである。

セクション・スポーツ・エチュードと C.P.E.F. からポール・フランスとポール・ゼスポワールへの移行は、1993年8月31日に当時のフランス青少年スポー

ツ省で閣議決定され、1995年3月24日より施行された。

ハイ・レベル・スポーツ選手登録制度は、オリンピック大会に参加する競技団体、もしくは、C.N.S.H.N.により認定された55の競技団体を対象としたもので、トップ・レベルのスポーツ選手の養成と各競技団体のスポーツ政策、すなわち“新たなスポーツ選手の受け入れ体制の確立”，“存在・特徴の明確化”，“近代化への姿勢の明示”，および“成果のアピール”等を連動させながら実現させていく制度である。

各競技団体内での責任者は、D.T.N. (Directeur Technique National : 技術運営部長)<sup>\*3</sup>である。

<sup>\*3</sup> 我が国には、このD.T.N.に値するような役職は存在しない。あえて言うならば、理事長と国際および競技力強化の責任者を合体させたような役職である。このD.T.N.は、協会の推薦を受けてスポーツ省において認定される。

ハイ・レベル・スポーツ選手登録制度は、1995年より申請を受理された51の競技団体で実施されている。この登録が承認されるためには、以下の4つの要素が盛り込まれた申請書類の提出が義務づけられている。

- 1) 各競技の最大の特徴を理解し得る内容であること。
- 2) ハイ・レベル・スポーツの発展・普及に対する数年間の計画が明記されていること。
- 3) ハイ・レベル・スポーツ選手を受け入れたポール・フランス、および、将来への可能性を持ったスポーツ選手を受け入れたポール・ゼスポワールを導入するにあたり、オリンピック大会に対応可能な、または同レベルと目される資質を有するスポーツ選手を登録していること。
- 4) Cahier des Charges (カイエ・デ・シャルジュ : 資金運用計画) を明確に示すこと。

となっている。

ハイ・レベル・スポーツ選手登録制度の有効期間は、オリンピックと次のオリンピックまでの4年間である。ちなみに、2000～2001年度のこの制度への登録状況は、表3の通りである。

2002年9月現在、フェンシング協会ではフランス国内に10ヶ所のポールを所有する。4ヶ所のポール・フランスと6ヶ所のポール・ゼスポワールがあり(図1)、約150名の選手がトレーニングを行っている。所在地は次の通りである。

表3. トップ・スポーツ選手登録状況(2000/2001年度)

項目	加盟数・ 選手数他	内 訳	数	備 考
登録競技団体	50	オリンピック大会採用種目	29	
		オリンピック大会外種目	21	
Pôles 総数	430	Pôles France Pôles Espoirs	130 300	女子専用 Pôles : 37(9%) 男子専用 Pôles : 90(21%) 男女混合 Pôles : 303(70%)
スポーツ省公認 Pôles 数	155	オリンピック大会採用種目	137	Pôles France : 79 Pôles Espoirs : 76
		オリンピック大会外種目	18	
Pôles 登録選手総数	9,400	Pôles France Pôles Espoirs	3,600 5,800	Pôles 内の女子選手比率は33%
18歳未満登録選手数	5,400	Pôles France Pôles Espoirs	1,200 4,200	Pôles 総数の57%
スポーツ省公認選手 総数	7,400	トップ・レベル指定選手	2,400	スポーツ省公認選手平均年齢: 19歳
		Espoirs と練習パートナー	5,000	
スポーツ省未公認選 手総数	2,000	Pôles France Pôles Espoirs	500 1,500	
スポーツ省関連施設 宿泊選手総数	2,900	Pôles France	1,800	Pôles 登録選手総数の31%
		Pôles Espoirs	1,100	
スポーツ省関連施設 宿泊18歳未満選手数	1,400	Pôles France	550	
		Pôles Espoirs	850	

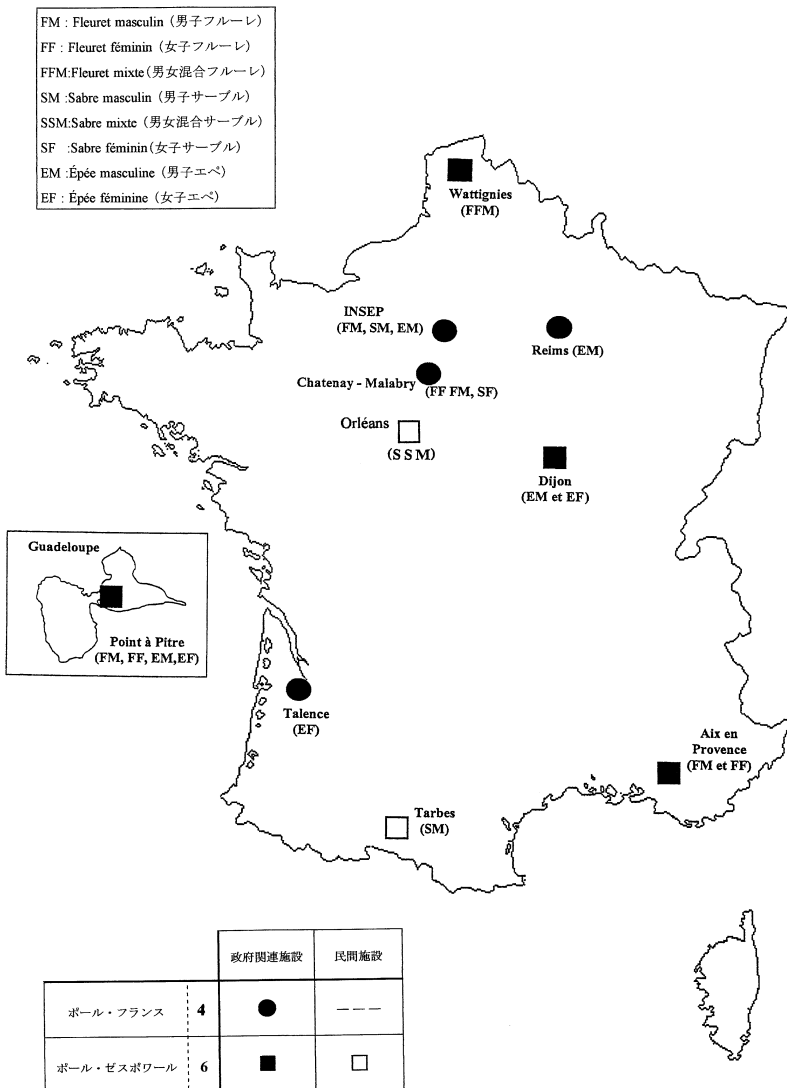


図1. フランス・フェンシング協会のポール・フランスとポール・ゼスポワール

【ポール・フランス】

- Paris (パリ) -I.N.S.E.P. (Institut National du Sport et de l'Éducation Physique 《フランス国立スポーツ体育研究所》：インセップ，以下同じ)
- Chatenay Malabry (シャトネ・マラブリ)
- Talence (タランス)
- Reims (ランス)

【ポール・ゼスポワール】

- Wattignies (ワーティニー)
- Dijon (ディジョン)
- Aix en Provence (エク・サン・プロヴァンス)
- Tarbes (タルブ)
- Point à Pitre (ポン・タ・ピートル，カリブ海ガルドループ島)
- Orléans (オルレアン)

それぞれのポールは，政府，地方自治体および民間トレーニング施設を利用している。パリでは，国立の施設を使用し，タルブとオルレアンでは民間の施設を使用している。それ以外は，総て C.R.E.P.S. (Centre Régional de l'Éducation Physique et du Sport 《公立体育・スポーツセンター》：クレップス，以下同じ) を利用している。クレップスは，広大な敷地の中に，トレーニング施設とともに教育施設，体力科学センター，医療施設，および宿泊施設等を設置し，総合的に選手を養成する体制が整えられている。写真4は，ボルドー近郊にあるタランスのクレップスである。その中には，完璧に整備されたフェンシング場(写真5)，体力科学センター(写真6)とともに，選手のコンディショニングには欠くことの出来ない，マッサージ，リハビリ等を行うトレーナー・ルーム(写真7)も設置され，医師の指導のもとにコンディショニングを行っていた。

現在タランスのフェンシング部門では，14名の女子選手がトレーニングを行っている。そのうち11名がクレップス内の宿泊施設で生活をしている。この14名の選手でもランクが分かれており，宿泊費・食費を6名には100%，残り8名



写真4 クレップス・タランス



写真5 フェンシング場



写真6 体力科学センター

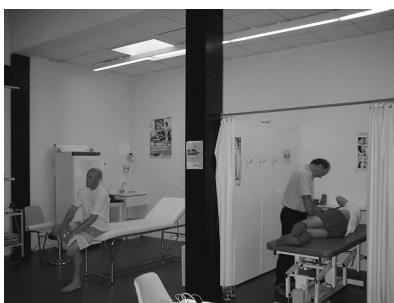


写真7 トレーナー・ルーム

には40%をフェンシング協会が支給している。また、この選手の中でも、大会遠征経費の補助額が100%の選手、交通費のみの選手、または自己負担の選手と、細かくランク分けされている。

図2は、パリ近郊にあるクレップスの一つシャトネ・マラブリの見取り図である。パリのインセップとの関連施設的な性格もあり、他のクレップスより若干小型の施設であるが、施設の充実度は羨ましい限りである。

フランス・フェンシング協会では、1980年代までは、ナショナル・チームをインセップに集めトレーニングを行っていた。しかし、その後フェンシング競技の種目数増加によるトレーニング施設の不足等の問題が生じ、トレーニング拠点を全国に分散した。特に、ポール・ゼスポワールには年少者が多いことも

あり、トレーニング場を全国数カ所に設置し、出来る限り自宅から近距離でのトレーニングを可能にした。また、トレーニング施設の分散は、各地方の優秀な指導者の参加を容易にし、より充実した指導を可能にした。これはフェンシングに限らず、他の種目にもいえることのようなのである。

以上のようにポールは、選手強化策として完璧と思えるシステムであるが、ポールへの参加は義務ではなく、あくまでも選手個人の判断によるものである。

では、このような競技力向上プロジェクトに参加するための基準を、フェンシング協会をモデルにして紹介する。

#### 【ポール・ゼスポワール選考基準】

- 1) ミニム・クラス (13歳～14歳) 前年度ランキング上位10選手
- 2) カデ・クラス (15歳～16歳) 前年度ランキング上位25選手
- 3) ジュニア・クラス (17歳～19歳) 前年度ランキング上位25選手

### CREPS d'ILE-de-FRANCE - Site de CHATENAY-MALABRY

1, rue du Docteur le Savoureux - 92291 CHATENAY-MALABRY CEDEX  
Téléphone : 01 41 87 20 30 - Télécopie : 01 41 13 93 07

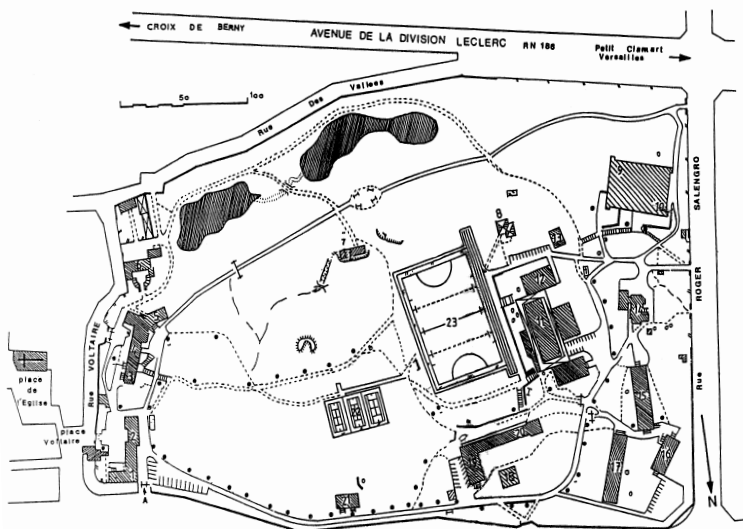


図2. クレップス・シャトネ・マラブリ



4) 前年度以来すでにポール・ゼスパワーに登録されている選手

5) D.T.N. の推薦

各選手は、各年齢別に設定されたカテゴリー<sup>\*4</sup>の前年度ランキングにより選考されるが、この基準以外に前年度のランキングの上位40位以内に入っている選手も今後のポール・ゼスパワー対象選手とされる。

<sup>\*4</sup> フランスのシニア・クラス（20歳以上）以下の年齢別カテゴリーは、ジュニアが3歳（17歳～19歳）である以外は、7歳から2歳おきに設定されている<sup>7)</sup>。

#### 【ポール・フランス選考基準】

・ジュニア・クラス以下の選手は、以下の規定で選考される。

- 1) カデ世界選手権大会代表選手
- 2) ジュニア世界選手権大会代表選手
- 3) D.T.N. の推薦

・シニア・クラスの選手は、以下の規定により選考される。

- 1) 世界選手権大会代表選手
- 2) 選定委員会によりフランス・ナショナル・チームに選出された選手
- 3) D.T.N. の推薦

ポール・フランスの中でも国際的に好成績が期待される選手は、特に“Élites：エリート”と呼ばれ、他の選手と待遇面で差を付けている。

エリートは、以下の規定で選考される。

- 1) オリンピック大会個人戦 Best 16進出選手
- 2) 世界選手権大会個人戦 Best 16進出選手
- 3) 世界選手権大会団体戦 Best 4進出選手
- 4) ヨーロッパ選手権大会個人戦 Best 4進出選手

これらポール・フランスらの練習のパートナーは、D.T.N. が選出する。また、ポール・フランスのリストからの除外、練習のパートナーの変更は、総て

D.T.N. が提案する。

## む す び

フェンシング競技の国際的競技力向上のためには、年少者からの系統的な養成が必要と考えられている。世界のトップ・レベルを維持しているフランスにおいては、従来よりそのような方針で成果を上げてきている。今回は、我が国における年少者からシニア・クラスまでの選手養成のシステムの参考に成り得るものと考え、調査した資料を紹介した。

我が国の場合、フェンシングにおいては、近年徐々に改善されつつあるが、依然として中学生以下からトレーニングを開始することが、ほとんどないのが事実である。そのため、高校生になってからの開始ということが、体力の充実と技術の獲得の上で、国際的に比較した場合、大きな差となることが想像される。それが原因かどうかは明らかではないが、従来より実施している各種測定からみた場合、我が国のジュニア・クラスのフェンシング選手の体格は、同年代の青少年とほぼ同一であり、体力的にも特に優れているとは考えられない。従って体力的にも技術的にも競技力を向上させるためには、フランスで実施されているような、系統的な指導が望まれるところである。また、我が国の指導者の中には、国内での競技会における成績のみを重視する傾向があり、本来のフェンシング競技の段階的な進歩を軽視しているように見受けられる面がある。そこで、このような現状を少しでも改善し、しかも効率よくトレーニングを実施して競技力を向上させるためには、フランスの方策を参考にすることも一案かと思われる。また、フェンシングのように、攻撃を繰り返して勝つためには、基本的技術・戦術の獲得とともに、それらを正確に実行するための筋力の向上と、それらを長時間持続できる持久性といった体力面の充実も必要である。青少年のバランスの取れた成長を期待すべく、競技成績のみに目標を置かず、青少年選手を優秀な学生へ、あるいは優秀な社会人へ導くことをも視野に入れたフランスのスポーツ政策は、我が国にとっても参考に値すると思われる。

今回のブラゾン制度で特に注目したい点は、子供たちに「すすんでフェンシ

ングの練習に参加したい」という気持ちを持たせるような練習をすることを、フェンシング協会が奨励していることである。まず、指導者が子供たちにフェンシングを好きにさせる。フェンシングとは、こんなに楽しいものだということを理解させる。フランスではこの過程を指導の最も重要なポイントとしており、子供たちにこのような気持ちが根付いた頃から技術、戦術等の指導を開始するのである。

実際、フランスで子供たちの指導を見ていると、フェンシングをやっているというよりも、子供と指導者が一緒になって遊んでいるという印象が強い。時には、親も交えて遊んでいる。試合にしても、長くても半日で終了し、後はそのまま体育館でパーティーをして楽しんだりする。また、指導者と家族がピクニックや、キャンプに行ったりする。このような光景は、我が国のクラブ活動ではまず見られない。我が国の多くの学校課外・クラブ活動の場では、中学、高校の3年間または大学の4年間で優秀な選手を育てようとするため、どうしても「ゆとり」のある選手指導をすることが難しいように思われる。ある団体では、体力的に充実していない年少者に対して休日も取らず活動をしているようであるし、学業よりもスポーツに時間を費やし、学習すら疎かにしているところもあるようである。本来、スポーツは本人の意思で「やる」ものであるが、他人から「やらされている」場合も、残念ながら我が国では非常に多いように思われる。このような状況では、スポーツを好きになる前に、スポーツに対して嫌悪感に似た感情を子供たちに植え付けてしまうことになる。フランスでは、このような事態を避けるため、特に子供に対しては、余裕のある指導を心がけているのである。そこには、年少者からシニアのチャンピオン、さらに熟年者のレジャーとしてのフェンシングに至るまで、一貫した系統的な指導が可能な「スポーツ・クラブ」の存在が大きく作用していることは事実である。ブラゾンだけではなく、ボールのシステムの起点にも、当然ながらクラブが有効に作用している。時には実際のボールと変わりなく、有意義に選手強化に役立つようになっている。

一流選手養成について我が国では、現在、東京都にナショナル・トレーニン

グ・センターを設置し、ナショナル・チーム等の集中的トレーニングを実施している。しかし、東京都以外に在住するスポーツ選手および指導者には、教育、仕事または経費等の問題が当然生じる。このような問題を出来る限り減少させる意味においても、各競技団体が全国数カ所にトレーニング施設を設置するとともに指導者を配置し、強化の効率を上げるのも一案かと思われる。フランスでは多くの場合、全国各地のクレップスを利用してトレーニングを行っている。そのような施設の乏しい我が国では、大学等を含めた学校施設を利用するのも一つの考えではないかと思われる。

とはいえ、スポーツ政策実施にあたっては、金銭的なバック・アップが必要であることは事実である。今回の調査中、あるフェンシング指導者が言った次の言葉が印象に残る。「フランス・フェンシング協会の最大のスポンサーは、フランス・スポーツ省だ。」

我が国では、現在、企業のスポンサーシップを期待し各競技団体が努力を重ねている。しかし、選手強化の根本的な部分は、やはり政府および地方自治体からの援助ではないかと思われる。上述したポール制度も、実際は政府の援助に頼っているのである。我が国でも、官民一体となったスポーツ政策がより強化されることを切に願うばかりである。

今後、国際的競技力向上のため、科学的な種々の測定によりフェンシング選手の資質を考究することに加え、年少者からの系統的な選手養成が可能な指導体系、組織およびスポーツ政策を整備することも重要であることを今回の調査で再確認した。

なお、フランスにおける研究・調査にあたりご協力を頂いた、フランス・スポーツ省、フランス・フェンシング協会、フランス学生スポーツ協会、フランス国立スポーツ・体育研究所および各地のクレップス、研究所等の関係者の方々のご厚意に対し、深謝申し上げる次第である。

## 文 献

- 1) 田淵和彦, 藤澤義彦: フェンシング競技選手の体格・体力(そのⅩⅢ) — 特に大学女子選手について —, 同志社保体39, p. 23~36, 2000.
- 2) 川井浩, 田淵和彦, 菅野虎雄, 秋保篤, 永野武晨, 飯田省三, 奥田明, 藤田裕司, 藤澤義彦: フェンシングの競技力向上に関する研究, 昭和59年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告, No.Ⅱ 競技種目別競技力向上に関する研究 第8報, p. 131~142, 1985.
- 3) 川井浩, 田淵和彦, 菅野虎雄, 永野武晨, 飯田省三, 奥田明, 大竹英二, 藤田裕二, 田辺吉一, 藤澤義彦: フェンシングの競技力向上に関する研究, 昭和60年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告, No.Ⅱ 競技種目別競技力向上に関する研究 第9報, p. 213~223, 1986.
- 4) 川井浩, 田淵和彦, 菅野虎雄, 永野武晨, 奥田明, 大竹英二, 佐々木進, 藤澤義彦: フェンシングの基本的技術と持久性について, 平成9年度, 日本体育協会スポーツ医・科学研究報告, No.Ⅱ 競技種目別競技力向上に関する研究 第21報, p. 111~119, 1998.
- 5) 川井浩, 田淵和彦, 菅野虎雄, 永野武晨, 飯田省三, 奥田明, 大竹英二, 田辺吉一, 田阪登紀夫, 高橋英一, 藤澤義彦: フェンシングの競技力向上に関する研究, 平成6年度, 日本体育協会スポーツ医・科学研究報告, No.Ⅱ 競技種目別競技力向上に関する研究 第11報, p. 193~204, 1988.
- 6) 川井浩, 田淵和彦, 菅野虎雄, 永野武晨, 奥田明, 大竹英二, 田辺吉一, 藤澤義彦: フェンシングの競技力向上に関する研究, 昭和63年度, 日本体育協会スポーツ医・科学研究報告, No.Ⅱ 競技種目別競技力向上に関する研究 第12報, p. 173~181, 1989.
- 7) 田淵和彦, 藤澤義彦: フランスにおけるフェンシング競技選手の育成について, 同志社保体33, p. 120~133, 1994.
- 8) G. BARRABINO, R. CLERY, H. DAVIGNON, J. DONNADIEU, S. GRISONI, R. H-ROBOTH, P. LACAZE, C. LECLERCQ. H. LESEUR, J・M. OPRENDEK, D. REVENU, P. THIRIOUX: LES CAHIERS DE LA COMMISSION PEDAGOGIQUE NATIONALE D'ESCRIME, p. 51~55, 1981
- 9) La Fédération Française d'ESCRIME: CLASSEUR de la VIE SPORTIVE FEDERALE, Chapitre A p. 3~5, 2001
- 10) La Fédération Française d'ESCRIME: Gide Fédéral. 1997-1998, p. 63~64, 1997
- 11) La Fédération Française d'ESCRIME: Gide Fédéral. 2002
- 12) Ministère des Sports, LES FILIERES D'ACCES AU SPORT DE HAUT

NIVEAU, 2002

- 13) G. BARRABINO, R. CLERY, H. DAVIGNON, J. DONNADIEU, S. GRISONI, R. H-ROBOTH, P. LACAZE, C. LECLERCQ. H. LESEUR, J. M. OPRENDEK, D. REVENU, P. THIRIOUX: LES CAHIERS DE LA COMMISSION PEDAGOGIQUE NATIONALE D'ESCRIME, p. 74~77, 1981